〔千葉医学　78：51～60，2002〕

〔学会〕　第1019回　千葉医学会例会
第一外科教室談話会

日　時：平成12年12月2日（土）12：30～16：25
平成12年12月3日（日）9：00～17：40
場　所：ホテルサンガーデン千葉

1．腐蝕性食道炎の1手術例

矢内桃子，古川勝規（千大）

症例は50歳男性。自殺企図にて水酸化ナトリウム服用後唾液も飲み込めない状態が続いた本症例に対して，低侵襲と思われる胸骨後経路回結腸による食道胃バイパス術を施行した。術後吻合部良好であった。問題点としては残存食道の癌化がある。症例数は2000年までに本邦報告数13例と少ないが，発症までの期間が24～51年と長いため，本症例に対しても長期の経過観察が必要である。

2．保存的治療で治癒した特発性食道破裂の1例

桜井　学，鈴木亮二，林　永規
佐藤拓道　（千葉県循環器病）

【症例】59歳男性【主訴】突然の胸痛【現病歴】夕食摂取後，激しい胸痛と背部痛を自覚し，当センター受診【検査結果】白血球，γGTP軽度上昇以外異常なし【画像所見】来院直後CT施行し左胸水著明。8時間後上部消化管造影で左胸腔内に造影剤の漏出あり【臨床経過】造影剤の漏出を確認後胃管挿入，胸腔ドレナージにて保存的治療を行う。22日目，造影剤の漏出なくなり，その後経口摂取開始し48日目軽快退院となった。

3．扁平上皮癌を混在した食道腺様嚢胞癌の1例

塩入誠信，漆原　徹，大森敏生
佐々木健秀，矢代智康，横山孝一
（県西総合）

症例は75歳男性。C型肝硬変にて，当院内科通院中，スクリーニングで施行した上部消化管内視鏡で，食道胃接合部直上に，病変を指摘された。精査の結果，扁平上皮癌を混在する，食道腺様嚢胞癌と診断され，食道部分切除を含む胃全摘術を施行，術後第29病日に退院した。食道腺様嚢胞癌は稀であり，また患者の全身状態を検討し，低侵襲手術を施行することで，良好な結果を得たので，若干の文献的考察を加えて報告する。

4．過形成性胃炎類似の内視鏡像を呈した表層拡大型早期胃癌の1例

門脇正美，唐木洋一，滝口伸浩（千大）

過形成性胃炎様病変に対し，内視鏡下生検を繰り返し，表層拡大型早期胃癌と診断された1例を報告する。症例は，54歳女性。2年前より過形成性胃炎と診断。本年3月，生検にて胃癌と判明し，EUSではSM'massiveであった。Step biopsyにより病変の広がりを確認し，幽門側胃亜全摘術（Billoroth I）を施行した。切除標本は，広範O-IIa＋IIc病変（11×8cm），tub1，n2であり，表層拡大型早期胃癌と診断された。

5．胃小細胞癌の3例

金子高明，大野一英，升田吉雄
遠藤文夫，新井竜夫，増田益功
尾形　章，笹田和裕
（松戸市立）

1997年から2000年の間に当院において3例の極めて稀な胃小細胞癌を経験した。病例は3例とも小弯側，上～中部に存在した。術前検索では転移は認められなかった。胃全摘術，Rouen-Y吻合で行った。StageIIIA 1例，StageIV 2例であった。術後化学療法として5FV＋CDDPを行った。予後は3年5ケ月，6ケ月の無再発生存，8ケ月原病死であった。文献的考察を加えて発表する。

6．胃癌皮膚転移の1例

吉田一也，寺本　修，勝浦誉介
勝股正義，大河原邦夫，前嶋　清
（小見川総合）

内臓悪性腫瘍のうち皮膚に転移するものは全体の3～4％と比較的稀であり，その原発巣は本邦では乳癌・胃癌・肺癌が多いとされている。本症例は皮膚転移が原発巣の発見に先行したもので，同様のケースの報告も散見されており印環細胞癌ではその傾向が特に強いといわれている。一般の転移性皮膚癌と同様にその予